

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-121	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Longitudinal prediction of divorce in Russia: the role of individual and couple drinking patterns. 飲酒パターンを用いたロシアにおける離婚の長期予測		
執筆者		
Keenan K, Kenward MG, Grundy E, Leon DA.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2013 Nov-Dec;48(6):737-42. doi: 10.1093/alcalc/agt068.		
キーワード		PMID
ロシア、飲酒、離婚		23851365
要 旨		
<p>目的： ロシアで長期間蓄積された既婚者と離婚者のアルコール消費量の関連を調査する。</p> <p>方法： この研究では、全国の住民ベースの研究である Russian Longitudinal Monitoring Survey の 1994 年～2010 年から抽出された 7,157 組の夫婦を対象とした。前回の調査と同様に飲酒パターンと離婚の割合について、離散時間ハザードモデルを用いて調べた。</p> <p>結果： 調整モデル(年齢、調査年次、教育歴、子供の有無、健康、生活への満足、社会経済的要因、配偶者の飲酒を調整)で、離婚率の増加は、夫 と妻の飲酒頻度の増加(それぞれ P=0.005, and P=0.05)、妻の大量飲酒(一回につきアルコール 80g 以上)(P=0.05)、夫のウォッカの多量の飲酒(P=0.005)と関連していた。夫よりも妻のほうがより頻回に飲酒する夫婦は、その他と比較してより離婚しやすかった(オッズ比 2.86, 95%信頼区間 1.52-5.36)。飲酒と離婚の関係はモスクワとサンクトペテルブルグ以外の地域でより強かった。</p> <p>結論： この分野の研究はこれまで少なかった。地域や飲酒の方法により差はあるが、ロシアにおいて夫婦の大量あるいは頻回飲酒は将来の離婚の危険性を高めることが明らかとなった。</p>		